

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている		入居者一人一人が、その人らしく過ごしていけるよう心がけ、一人一人により良い場所であり続ける為に必要な理念とは何か考えていく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		管理者と職員は、理念を実践できる為に、常に意識を持つ様心掛けている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		事業所の新聞や、地域との交流の際、使用する資料に理念を書き込み、配布し理解して頂く。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		隣近所の人が、声を掛けやすい様な雰囲気作りを心掛ける。こちらから挨拶をする様心掛ける。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の行事に積極的に参加していく。地域の方々と交流する際、地域の一員としての意識を高く持つ様にしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	久留米市のNPO久留米市社会福祉事業者協議会で、グループホーム部長を勤め、久留米地区の老人会や認知症家族へ講習を行っている。また、認知症やそれ以外の方の困難事例に対し施設等の説明や紹介を行い、地域包括支援センターや市町村との情報交換の窓口をおこなっている。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受ける事で、自己評価をし出来ないところを、再確認する事ができる。他者からの評価により視点を变えて、自ホームをみることが出来、新たな発見と改善点の明確化につながる。		自己の反省点は、謙虚に受け入れ改善を行い、効果は高いと思う。しかし、評価の全部は受け入れないが、改善出来る事は、行っている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は、行える様に、関係者に、早めに連絡を、取っているが、強制参加ではない。参加者の意見、要望、又、自ホームの要望等話し合い、今後の改善に役立っている。		記録した内容を、リーダーで話し合い、改善を行っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	十分な連携を行いながら、市町村の相談等にも対応している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と数名のスタッフは権利擁護事業や成年後見制度の研修を受けている。御家族から依頼された場合、協力している。		御家族の依頼で、成年後見制度の書類提出に、協力をを行った
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は認知対応型管理者研修やリーダー研修、その他で虐待の事について学んでいる。スタッフはミーティング時に説明を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は十分な時間を取り、文章、口頭での説明を行い、理解納得出来るような体制を確保している。</p> <p>契約書は、2通作成している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員を担当制にし、利用者との深い信頼関係を築くこと出来る環境にし、意見、不満等表わせる様心がけている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、月末に1ヶ月の状態等の報告と御家族の希望等の聞き取りの電話を行っている。更に、請求書送付時、個人支出明細書を同封し、疑問がある場合は、領収書等を提出して説明を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月、月末の報告連絡の際、御家族からの意見、苦情等の有無の確認を行っている。更に、ホーム玄関に意見箱を設けている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回、職員全員参加による会議を行い、意見の交換を行い介護に反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>事前に職員の希望をカレンダーに記入し、職員同士が重ならない様配慮する。但し、希望休みは、1回とする。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出来るだけ職員の入れ替わりがないように、給与や福利厚生の充実を図っている。また、管理者や計画作成担当者の兼務を避け、職員が講習を受け担当することで自覚を持った職務と手当等の支給での給与面での配慮も行っている。利用者の方への担当者制を取ることで、利用者の方と関わる家族等までの馴染みを作ることに配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用の際、年齢制限していない。</p> <p>職員一人一人が、役割を持つ様にしている。</p> <p>外部研修の情報も公開し、自発的に参加出来る様にしており、資格取得についても、協力体制を取っている。</p>	<p>回覧箱を用意している。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>内部研修で、ビデオを使用し人権教育をおこなった。</p>	<p>定期的に入権教育を行っていく</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の段階に応じた、外部研修の提供をしている。また、外部研修の情報も公開し、自発的に参加出来るようになっている。</p>	<p>職員教育の計画書の作成。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>スタッフ交流会として、食事会、ボーリング大会など企画している。また、交流会開催情報を掲示板に掲載し参加を促している。</p>	<p>勉強会、相互訪問の機会を作る。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月に一度希望休みを取っている。</p> <p>職員のストレスを聞ける様、環境作りに配慮し、一人一人に目を向ける様心掛けている。</p>	<p>休み希望ノートを作成している。</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>年に二回自己評価を行っている。</p> <p>常時、リーダーが勤務している体制を取り、状況把握し報告する様にしている。</p>	<p>自己評価の継続。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学时、自宅（又は、病院等）訪問時、話しやすい環境作りを心掛けている。また、入所前に数回訪問し顔なじみになっていくこともある。</p>	<p>体験入所を行っている。</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学时、自宅（又は、病院等）訪問時、話しやすい環境作りを心掛けている。また、入所前に電話連絡や、訪問を行っている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族と話をする機会を多く設け、情報収集に努め必要としている支援を見極めるようにしている。</p>	<p>介護保険の範囲についての説明を行う</p>
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所や、入所前にホーム行事に参加して頂きホームの雰囲気馴染んで頂いている。また、本人の生活暦を把握しておき、少しでも添える様工夫している。</p>	<p>入所後、1週間以内にケアプランを立てる。</p>
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご本人の出来る事は少しでもして頂き、一緒に過ごしながら、同じ時間を共有していける様心掛けている。また、職員が知らない事は度々入所者に尋ねている。</p>	<p>尊厳を守る様心掛けている。</p>

グループホーム いちょうの杜津福

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、月末に電話連絡し普段の様子を報告し話し合いながら支援している。時には、相談し意見を求める事もある。		希望あれば、家族に個人記録の公開をしている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	家族とのコミュニケーションをとる様心がけ、情報収集している。また家族との、外出や外泊も出来るだけ行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	本人の馴染みの場所を探り ホーム行事で行ったり 家族の協力を得て行ったりしている。御家族の許可があれば、出来るだけどなたでも面会して頂くようにしている。		個人の面会簿を作成し、把握しやすくしていく。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	ホーム内レクリエーションに、出来るだけ参加して頂き利用者同士の交流の場を設けている。また、利用者同士の関係を把握しておき、食事の席順やレクリエーション時の席順に配慮している。		利用者同士の交流の場を、少しでも多く設けていく
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も催し物もの際、案内状出し参加して頂いている。また、度々遊びに来られる方もいらっしゃる。必要時には、相談等も受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の認知度、身体的障害のレベルに合わせて暮らす中で、生活に支障のない範囲での希望や意志を尊重した生活を支援している。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>個人情報把握し理解を持って、本人の長年の生活習慣のパターンを尊重した介護プラン作成に心がけている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入所者一人一人の対して過去の生活習慣を把握し、身体、認知状態に応じた役割を持つ事で、1日の過ごし方を提供しながら、自発性を養い、日々変化する身体の状態を十分に把握している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、御家族はもちろん、スタッフ、ドクターの意見等もふまえて担当者会議を行い、多方面からみたアイデアを反映したケアプランを作成している。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1度はケアプランの見直しを行い、入退院後、状態変化が見られる場合はその都度ケアプランの立て直しを行う</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し 情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別のファイルを作り 個人の情報を出来るだけ細かく記録、保管し情報の共有を図っている。また、この情報を活かし介護計画書の見直しを行っている。		現在、気づきは別に記録している為、個人のファイルにも記録する様にしていく。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来るだけ、柔軟な支援が出来るよう常に心掛けている。本人、家族と連絡を十分に取しその時に必要な支援を探り支援している。 家族との外出で、不安を訴えられる場合は職員も同席で外出することもある。		家族、本人のその時々々の要望を確実に探っていく。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化 教育機関等と協力しながら支援している	催し物の際、ボランティアの協力を得ている。その他も、問い合わせあればボランティア受け入れ行っている。 年に1度消防士たちあいの元、消防訓練を行っている。		警察、教育機関との関係を深めていく。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他のケアマネジャーに相談を持ちかける事もある。 訪問入浴、通所リハビリ 訪問マッサージ、訪問整体利用経験あり		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターに、広く窓口を開き情報意見交換を行っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族に医療機関を選んで頂く様にしている。御本人の病状に応じて、看護員付き添いのもと 医療機関へ受診している。 御家族に対しても、十分な説明と相談が常に受けられる環境にしている。往診の依頼もしている。		

グループホーム いちょうの杜津福

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	どの職員も気軽に、医師に相談できる環境作りをしている。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理を十分に行い、急変時の対応も敏速に行える様にしている。 訪問看護ステーションの利用もできる。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、協力医・家族・本人・ホーム看護師と話し合う機会を設け、早期退院を行う様にしている。また入院時は、ホーム職員が定期的に面会に行き状態確認を行う様にしている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期では、担当医・看護より家族に説明し、定期的に利用者の終末期に対する考えを話し合っている。本人には、入所時より終末期のあり方について話す機会を設けており、終末期に入った場合、本人の状態に応じ本人とも話し合っている。		職員全員での話し合いを行って行く。
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に、本人・家族の希望・要望を伺える様、コミュニケーションを十分とり、信頼関係をきづく事を心がけている。更に、終末期での希望・要望に関しては、担当医・家族と連携を取り実現を目指している。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	担当医・看護員・ケアマネジャーが会議を行い、住み替え先でも安心して生活出来る様支援しています。また、必要があれば本人・家族の所へ行き話し合いを行います。		ケアスタッフを交えた話し合いを行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>			
52	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人や家族に許可無く、個人情報を第三者に開示・提供しない。</p>	<p>プライバシー・個人情報に関しての管理方法を明確にする。 書類等は、本人・家族に処分方法を確認する。</p>
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたいと納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>何かを行う時には、今から何を行うのかを確実に伝え、それに対する希望や拒否がある時は、可能な限り本人の思いを通す様にしている。</p>	<p>本人のしたいことを分かるようにし、希望を表出しやすい様に、優しい言葉・態度で接する。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側から何をするか押しつけるのではなく、必ず本人に尋ね本人の希望を伺って支援している。また、入浴・食事についても、急がせる事無く、本人のペースを大切にしている。</p>	<p>会話の中から、本人の希望を聞いて行く。 本人のペースを職員が把握し、それに合わせた支援を行って行く。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に2回、地域の美容師が訪問している。希望があれば、本人希望の店まで送迎している。</p>	<p>本人の好みを確認しながら、衣類等を決める。</p>
56	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人一人のレベルに合わせた準備・片付けの声かけを行い、出来ない所だけを職員が行っている。</p>	<p>食事を楽しめる様、メニューを考える。 その人にふさわしい、状況・環境を作り、一人一人の力が発揮出来るよう取り組む。</p>
57	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>乳飲料・牛乳等希望者には、配達してもらい飲んで頂いている。 たばこも、希望あれば吸って頂いている。しかし、火災防止するため、目の届く所に喫煙所を設け、その場所でのみ、喫煙して頂いている。また、健康面を考慮し、たばこは職員が管理している。</p>	<p>今後も、嗜好品を楽しめる様に、体調管理を行って行く。また、日常の会話の中から、一人一人の好みを聞き出して行く。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを探り、トイレ案内を行い排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。 失禁体操を取り入れている。		排泄パターンは変化する事も多い為、こまめに見直しを行って行く。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	階ごとに曜日が決まっているが、順番や時間等は出来るだけ本人希望の、順番・時間に入っている。		ゆとりを持って支援していく。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状態を観察、把握を行い、個人のペースを乱す事なく、安心して生活して頂ける様支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	活気があり、楽しく過ごせる様、一人一人に出来ることを行って頂き、その人の力を活かした役割や、それをする楽しみ事、気晴らしの支援を行っている。		無理強いするのではなく、その人の出来る事を捜して、その力を伸ばしていき、役割や楽しみ事を増やしていく。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望があれば、ホームで管理するが、基本的には本人に所持して頂いている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人希望時又は職員から声かけする事も多いが、散歩・買い物・草取り等出かけている。他にも、ホーム行事で外出する機会多い。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	一人一人に希望を聞いていき、希望の場所にホーム行事の中で実現している。家族と共に出かけられる場合、家族・本人が不安訴えられる場合、職員同行で行く事もある。		天候等で中止になった場合、日を改めて外出する機会を設け、外出支援を行う

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	本人 家族の希望を聞き希望あれば行っている。季節の手紙は、一人一人に書いて頂き、家族に送っている。		本人 家族が希望していないか、声かけを行う
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	季節毎にディスプレイを変え、親しみやすい雰囲気を作っている。また、玄関周辺に季節の花を植え明るく、いつでも訪問しやすい雰囲気になっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、研修を行う事で理解に努めており 拘束は行っていない。		定期に、外部研修参加し、内部研修を行う
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており 鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしていない。人の出入りが把握出来るよう 職員が常時、入り口が見える所にいる体勢にしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は本人のプライバシーに配慮するため、見守りを行いその情報は職員同士で声かけし合い、情報の共有を図り 所在確認を行っている。夜間は、定期的に巡視を行い状態確認をしている。		必要以上に詮索しない。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態を把握し、状態に応じて対応している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	カルテ等で利用者の状態や病状を把握し、事故予測をしている。また、ヒヤリハット等の検討を行い、職員間での危険意識・事故防止・意識の向上を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変マニュアルを作成している。急変時の、医師・看護師の連絡体制をとれている。		応急手当・初期対応の訓練を定期的に行う
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携をとり定期的に訓練を行っている。また、ホーム内のみでの訓練も行っている。		地域の人々の協力を得られるよう働きかけていく。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族等への説明は、その都度利用者の変化により行い、家族と一緒に対策を話し合っている。		あらゆる情報を収集し、様々な観点からリスクを検討し、職員全員で安全で快適な暮らしが出来るよう支援していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	毎日のバイタルサインのチェックや顔色、入浴時の皮膚の観察など、常に異常があれば医師・看護師に速やかに報告を行っている。		早期発見、報告に努めている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のカルテに、薬の説明書を添付している。また、内服変更時は看護職より説明を行っている。		薬についての勉強会を、職員及び薬剤師を含めて行いたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、排便状況を把握し、便秘予防に努めている。また、便秘予防・解消法は一人一人異なる為、個人に合った方法を取り入れている。		出来るだけ自然排便が出来るよう心掛け、腹部マッサージ・水分調節・適度な運動指導に努めている。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人に応じた歯磨き・うがいの声かけ、案内を行っている。寝たきりの方は、定期的に緑茶を使用し、口腔清拭を行っている。また、定期的に、歯科医の健診や治療を行っている。		研修を行い、口腔内清潔保持の重要性を学ぶ。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Dr,Nsの指示に基づき、個人の体調に合わせて準備している。個人の習慣や好みについては、家族、本人に聞き、情報収集しそれに元ずいて、職員で話し合い個々にあった支援を心がけている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	Nsによる内部研修を行い、感染予防の意識の向上に努めている。常時、清潔保持を心がけている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用して、賞味期限の確認を行う更に、衛生管理に気を配っている。		調理器具、食器などの加熱殺菌を行い、素材の安全性を重視し、危機管理は、慎重な注意を行う
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇やプランターに、季節の花やハーブ栽培している。ハーブはアロマテラピーとして利用している。更に、施設内も季節事の飾りをし、明るい雰囲気作りをしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎のディスプレイを行い、季節感の花を飾り季節感を出している。不快な音、光、明かりに注意を払い、利用者の変化を見逃さない様心がけている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアはソファー、テーブル、和室に分かれておりテレビ鑑賞や雑談、読書等されながら過ごして頂く。独りになりたい方は自室へ行かれる。		

グループホーム いちょうの杜津福

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人の使い慣れ家具等持ち込んでいただくよう説明している。各自、思い思いの居室にしている。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を、2カ所設置しており 職員がこまめに確認をしており 調節をしている。定期的に、換気も行っている。更に、トイレにはオゾンによる殺菌効果のある機械を設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自、役割があるため、一つ一つ危険のないよう 高さの設定やフェンスの設置など工夫をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱をするようなものについては、混乱しないよう工夫しているが、一人一人混乱する物が異なるため、その都度対応している。		見守り 観察を怠らない。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	玄関付近に、プランター 花壇を設けており ホーム横には畑を作り 利用者と一緒に季節の物を植えたり 草取りをしたりしている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム いちょうの杜津福

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「学習療法」を通し、利用者の認知症の改善、日々の状態把握に努めている。利用者の文字を書く時の手指の動き、音読する時の声の調子、取り組む姿勢、声かけに対する反応等を観察し、その時点での利用者の身体や精神状態の把握に努めている。また、文章の内容について会話するなど、コミュニケーション手段としても活用している。こうして把握した利用者の状態は、記録に残し、定期的に見直し話し合い、全職員がその情報を共有し、その後の支援にいかしている。